

東京足立 千住工房通信

株式会社千住工房
東京都足立区南花畑3-35-1
グリーンパーク花畑VI-507
電話(03)3859-2720

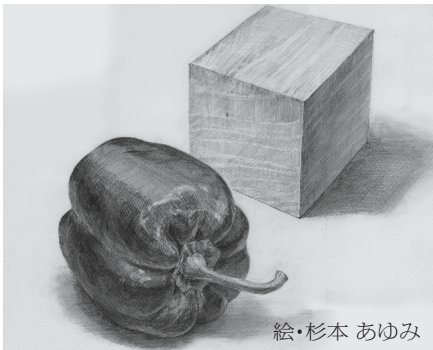
お問い合わせは
info@senjukobo.co.jp
www.senjukobo.co.jp

この業界はデッサン力が命

当社、株式会社千住工房社長、杉本あゆみが新人スタッフ二名を連れ、9月10日にデッサン教室へ行ってきました。社長も学生時代には随分デッサンをやったようですが、25年ぶりで鉛筆デッサンにチャレンジしたとのこと。
新人の二名は、デッサン教室という、普段の仕事から一旦離れた体験に、素直に喜んでくれたようでした。



そんな新人たちのデッサンはまだお見せできませんが...こちらが↓社長のデッサン。せめてコレくらい描けるようになってね...



絵・杉本 あゆみ



『深械魚』 絵・杉本 朋隆
前回の魚を立体感を出して描いてみました。
今回は魚じゃないものになります。



『ラーメン』 絵・藤野 健
夜中に岩場を描いたら岩がチャーシューに草がネギに見えてきて急にラーメンが食べたくなりました。



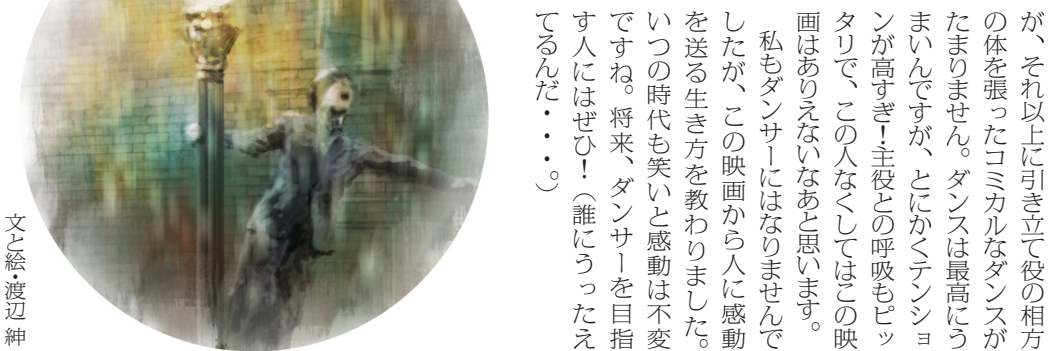
アメリカ支部だより

どうもTAROです。今回は近所で夏ごろから毎週開催している「ファーマーズマーケット」というイベントを取り上げようと思う。
これは、近隣の農業者などが集まって農産物や加工品を物色し、足早に市場を抜けていくという器用な立ち回りをする自分。本末転倒という言葉が頭をよぎる。

自分も子供の頃にはちよくちよく行っていた気がするが、最近行った記憶がないので足を運んでみようと思った。思った方がいいが、特に買い物をするつもりもないのに来たから何となく気まずい。
商店街のある車道を封鎖してそこに露店が並び形で開催されているのだが、業者さんたちとの距離感がなんとも気まずい。彼らの視線を避けつつ商品を物色し、足早に市場を抜けていくという器用な立ち回りをする自分。本末転倒という言葉が頭をよぎる。



「この映画も知らないの？」とひかれる程、映画を観てこなかった私ですが、テープがすり減るほど観たという永遠の心の名作があります。
それは「雨に歌えは」です。古き良き時代のアメリカを舞台としたミュージカル映画です。
学生時代、私はダンスにドハマりして美大生にもかわらずプロにでもなるかと思う時期がありました。そうした時にふと借りてみたこの映画は私の心と真ん中を撃ち抜きました。
ストーリーに多少関係なくとも次から次へと歌い踊る、合成や代役もない俳優達の体当たりのダンスの勢いに圧倒され、エンターテイメントとはこのことか！と感動しました。
CMでもよく見かけるシーンです降りの中で踊るシーンは有名です



文と絵・渡辺 紳

Liquor and Snack

「ゆかり」っておいしいですね。ご飯に混ぜるだけでなく、パスタや野菜とあえるだけで簡単に一品できちゃうし。我が家で定番の箸休めの一品が、「きゅうりのゆかり和え」です。

少し厚めの輪切りのきゅうりと、ゆかり、酢、ごま油を混ぜるだけです。わたしは、ちょっと酔多めが好きです。これはやっぱり、日本酒とか焼酎に合うでしょうか。

私の息子が、小学校の低学年の頃のこと...
「給食ですっごいおいしいきゅうりのおかずが出るから作って」
「お母さんは食べてないから分からないよ〜？」
「僕、分かるよ。作れる！」
と言って、自分の舌を頼りに初めてお料理に挑戦！って感じて作ってくれたのがきっかけで、よく食卓に上るようになりました。

あ〜、あの頃は可愛かったな〜あれから約8年、今はきゅうり2〜3本分べろっと食べるけど、自分で作ろうとなんて全然してくれませんが、小さい頃は、料理とかお手伝いをやりたがってたけど、親がほんとにやってほしい年頃になってくると、逆に全くやりたがらないという...。なかなかうまいこといきませんね...

文と絵・小林 雅代

鈴木春信について

第二回は男女の恋を描かせたら天下一品。青春をこよなく愛す「鈴木春信」 絵師です。

まず鈴木春信について説明します。鈴木春信は江戸時代中期の浮世絵師で浮世絵(錦絵) 創始期の第一人者として知られています。活躍期間が五年と短い中で(それでも前回の写楽よりは長いですが)千図以上の作品を世に送り出しています。

主に美人画を描いていた鈴木春信は色彩にとてもすぐれていたと言われています。数多い色を組み合わせての心地よい調和をはかる

技術は私も見習いたいと思いましたが、男性が分からない不思議さが面白さを感じさせ、軽やかでほっそりとした線の美しさは外国人のウケもよかったです。きつと多くの女性に支持されたであろう春信の純粋な男女の青春のメモリーを描く様は、現代で言えば女性の夢を描いている少女マンガと同じ役割を果たしているのだらうなと思えます。

文と絵・阿部 遥

鈴木春信 — 青春の中の浮世絵師 —

こんにちは。先月号で浮世絵師「写楽」を語らせていただいた阿部遥です。今月号も魅力のある浮世絵師を紹介したいと思いますのでよろしくお願ひします。